



W.シュトレレー来日コンサート



出演者プロフィール



W.シュトレレー (Va)

に渡って活躍した世界的に有名なブランドイスカルテットの創設メンバーであった。シュトレレーの共演者にはイエーフィム・ブロンフマンやダーヴィット・ゲーリンガス等、多くの著名な音楽家がいる。チェロ奏者ゲーリンガスとは2016年に指揮者ゲルギエフ氏より招待を受け、サンクトペテルブルクの白夜祭でマリンスキー管弦楽団のソリストとしてリヒャルト・シュトラウスの「ドン・キホーテ」を演奏した。室内楽・ソロ奏者としても南米、アジア、東ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ等、世界各国で演奏活動をしている。ハルモニア・ムンディ、オルフェオ、テルデック、EMI、ドイツグラモフォン、ニンプスレコードより、多くの室内楽の録音が出ている。(記：今城理恵)

エミール・ケッシーンガー、ウルリッヒ・コッホ、ティボー・ヴァルガに師事し、20歳を過ぎた頃、ヘルベルト・フォン・カラヤンにその才能をいち早く見出され、カラヤン率いるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーとなる。1984年から2013年までヴィオラ・ソロ首席奏者としてカラヤン、アバド、ラトル時代のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を支えた。その傍ら現在においてもベルリン芸術大学客員教授、及びパレンボイム・ザイードアカデミーで教鞭を執り、長年に渡りベルリンフィル・カラヤンアカデミーでも後進の指導者をした。たくさんの愛弟子がベルリンフィルはじめ、ベルリン・ウィーン、ミュンヘン、ドレスデン、ハンブルクなどの世界中の主要オーケストラにおいて中心的メンバーとなり、大きな成功を収めている。指導者として絶対的な信頼と定評を得て、モーツァルト・フェスティバル・サマー・アカデミーや、モスクワ、イェール、北京、上海、東京など各国マスタークラスや大学に招聘されている。ヴィルフリート・シュトレレーはオーケストラ奏者として教授職の一方で、ソリストとして、また熟練した室内楽奏者としても名声が高く、特に25年間

戸澤哲夫 (Vn)

東京藝術大学を経て、同大学院修士課程を修了。大学院在学中の1995年1月、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスターに就任、現在までその重責を果たし内外の指揮者からの信頼も厚い。ソリストとしても、リサイタル活動に加え、これまでに東京シティ・フィル、東京フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、広島交響楽団などと共演、1997年4月には米国デビューを果たし大好評を博した。1998年11月より1年間、アフィニス文化財団の海外派遣事業によりドイツ・ベルリンに留学、元ベルリン・フィルコンサートマスターでフライブルグ音楽大学教授ライナー・クスマウル氏のもと研鑽を積む。モルゴア・クアルテットメンバーとして2010年度アリオン賞、2015年第14回佐川吉男音楽奨励賞、2017年第47回JXTG音楽賞洋楽部門本賞を受賞。プログレ名曲をカバーしたアルバム「21世紀の精神正常者たち」「原子心母の危機」「トリビュートロジー」を発売、大きな反響を呼んでいる。現在、国立音楽大学及び日本大学芸術学部非常勤講師。

桐原 宗生 (Vn)

1992年生まれ。鹿児島県出身。3才よりバイオリンを始め、10才でオーケストラのバイオリン奏者を志す。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を経て桐朋学園大学音楽学部にて学ぶ。在学中、N響アカデミー、小澤国際室内楽アカデミー、PMR、サントリー室内楽アカデミー、プロジェクトQ等に参加し、アンサンブルの研鑽を積む。第64回全日本学生音楽コンクール高校の部全国大会第2位。第31回鹿児島県新人演奏会にて最高位(県知事賞)受賞。2015年9月より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の第2バイオリン首席奏者を務める。またその傍ら、群馬交響楽団、広島交響楽団、札幌交響楽団等に客演している。これまでにバイオリンを中島三幾、堀正文、久保良治各氏に師事。

大友肇 (Vc)

弦楽四重奏団「クアルテット・エクセルシオ」を'94年桐朋学園大学在学中に結成。以来、日本では数少ない常設団体のメンバーとして活躍している。邦人団体として初めて2週間(5回の演奏会)でのベートーヴェン弦楽四重奏全作品演奏を行うなど、主に室内楽作品の取り組みを幅広く行っている。第2回大阪国際室内楽コンクール弦楽四重奏部門第2位。青山音楽奨励賞(現パロックザール賞)、リゾナーレ音楽祭にてマイカル賞、緑の風音楽賞受賞。第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、サルバトーレ・シャリエノ特別賞を受賞。第19回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、ホテルオークラ音楽賞を受賞。エクセルシオが全曲演奏した作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」の公演が、サントリー芸術財団から第9回佐治敏三賞を受けた。チェリストとしても齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2017年より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団客員首席奏者を務める。財団法人日本チェロ協会評議員。

白木麻弥 (Va)

さいたま市出身。10歳よりヴァイオリンを始め15歳でヴィオラに転向。東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京芸術大学を経て同大学院修士課程を修了。在学中、芸大室内楽定期演奏会や東京芸術大学同声会主催「新卒業生演奏会」等に出演。ヴァイオリンを米原豊、守岡輝、浅井千裕、沢和樹、ヴィオラを故浅妻文樹、川崎和憲、室内楽を故田中千香子、岡山潔、山口裕之の各氏に師事。2002年から2007年まで安田弦楽四重奏団のヴィオラ奏者を務める。現在、Alberi String Quartet、さくら弦楽四重奏団のメンバー。室内楽をはじめ国内オーケストラのゲスト首席奏者を務める等幅広く活動する他、後進の指導にも力を注いでいる。現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席奏者。

毛利文香 (Vn)

2012年、第8回ソウル国際音楽コンクール第1位。2015年、第54回パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベート王妃国際音楽コンクール第6位。これまでに、川崎市アゼリア輝賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞、京都・青山音楽賞新人賞、ホテルオークラ音楽賞受賞。ソリストとして、神奈川フィル、東京フィル、東京響、韓国響、ベルギー国立管等、国内外のオーケストラと多数共演。また、宮崎国際音楽祭、武生国際音楽祭、イタリア・チェルヴォ音楽祭等に出演。2016年3月には、紀尾井ホールにてデビュー・リサイタルを行った。ヴァイオリンを田尻かをり、水野佐知香、原田幸一郎の各氏に師事。桐朋学園大学音楽学部ソリストディプロマコース、及び洗足学園音楽大学アンサンブルアカデミー修了。慶應義塾大学文学部卒業。2015年9月より、ドイツ・クロンベルクアカデミーに留学し、ミハエラ・マーティン氏に師事している。第45回江副記念財団奨学生。

戸澤采紀 (Vn)

第69回全日本学生音楽コンクールバイオリン部門中学校の部東京大会第1位、全国大会第1位を受賞。ならびに、横浜市民賞、兎東賞、東儀賞を受賞。第85回日本音楽コンクールバイオリン部門第1位を受賞。併せて黒柳賞、鷺見賞、レウカディア賞を授賞。'17年、スイス・シオンで行われたティボー・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクールで第2位(最高位)を受賞。'16年、フィンランド・クフモ室内音楽祭ヤングアーティストとして参加。これまでに、ローザンヌ室内管弦楽団、東京都交響楽団他多数のオーケストラと共演。2018年度ヤマハ音楽奨学支援奨学生。使用楽器は、文京楽器の協力により、Beare International Societyより貸与されている。J.B.Vuillaume。これまで玉井菜採、ジェラルド・ブーレ、保井頌子の各氏に師事。現在、東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校3年在学中。



虎ノ門駅: 東京メトロ銀座線: 3番出口より徒歩4分
溜池山王駅: 東京メトロ銀座線・南北線:
9番出口より徒歩5分
電ヶ関駅: 東京メトロ日比谷線・千代田線・丸ノ内線:
A13番出口より徒歩7分